

聴覚障害児童に対する日記指導における指導内容の特徴

—高学年在籍児童に対する指導内容の分析—

○茂木成友

(東北福祉大学 教育学部)

KEY WORDS: 聴覚障害児童 日記指導

(目的)

近年の情報通信機器の普及に伴い、社会生活における書きことばの重要性が高まってきている。聴覚障害児者は書きことばの獲得に困難を示すことが知られているが、教育現場では書きことばの指導の1つとして日記を用いた指導が広く行われている(田中ら, 2007)。これらのことから、本研究では、小学校段階の聴覚障害児が書いた日記に対して、担任教諭がどのような指導を行っているのかを明らかにすることを目的とした。

(方法)

分析対象: 特別支援学校(聴覚障害)小学部に在籍していたA児が小学部4年生から6年生までの3年間に書いた日記のうち、担任教諭による指導がみられた日記を対象とした。

分析の観点: A児が書いた日記に対して、担任教諭がどのような指導を行っているのかを検討するため、指導の際に用いた使用語彙を集計した。なお、当該期間のA児の担任教諭は同一であった。

(結果)

A児が書いた日記のうち、担任教諭による指導がみられた日記は716日分(4年生日記217日分、5年生245日分、6年生254日分)であった。担任教諭による指導の文字数は25,286文字(4年生7,933文字、5年生8,789文字、6年生8,564文字)であった。これらの指導をテキストデータ化しText Mining Studio (NTTデータ数理システム)によって集計を行った。

1. 学年別の使用語彙

まず、担任教諭による指導で用いられた語彙を学年別に集計したところ、のべ使用語彙数は4,675語(4年1,472語、5年1,610語、6年1,593語)であった。このうち、各学年で使用頻度上位5つの語彙をTable 1、Table 2、Table 3に示した。

いずれの学年においても、「良い(良かった、なども含む)」が最も多かった。また、「頑張りたい(頑張ってもらいたい、なども含む)」もいずれの学年においても多くみられた。その他にも、「思う」、「どうですか?(どうでしたか?、なども含む)」などのように、担任教諭自身の考えや、A児がどのように感じたか、考えているかといった内容を確認するような指導も多くみられた。

2. 「良い」の使用パターンについて

次に、A児の日記に対する指導で、最も多く(151回)使用された「良い」について、その使用パターンを検討するため、「良い」を、「応答」(例: ~で良かったですね。)、"改善"(例: これからは○○できると良いですね。)、"単純修飾"(例: 良い本など)、"その他"(例: 気にしなくても良いです)の4つに分類した。その結果、「応答」が最も多く、61回(4年生23回、5年生16回、6年生22回)、次いで、「改善」が33回

Table 1 第四学年在籍時の日記指導の使用語彙

語彙	出現頻度数
良い(良かった、なども含む)	49
頑張る	24
どうですか?(どうでした?、なども含む)	19
頑張りたい(頑張ってもらいたい、なども含む)	19
今日	18

Table 2 第五学年在籍時の日記指導の使用語彙

語彙	出現頻度数
良い(良かった、なども含む)	45
友達の氏名	30
頑張りたい(頑張ってもらいたい、なども含む)	24
思う	17
どうですか?(どうでした?、なども含む)	15

Table 3 第六学年在籍時の日記指導の使用語彙

語彙	出現頻度数
良い(良かった、なども含む)	57
思う	29
頑張りたい(頑張ってもらいたい、なども含む)	28
友達の氏名	24
A児の氏名	15

(4年生10回、5年生11回、6年生12回)、「単純修飾」が32回(4年生11回、5年生8回、6年生13回)、「その他」は25回(4年生5回、5年生10回、6年生10回)であった。

(考察)

特別支援学校(聴覚障害)小学部4年生~6年生までのA児が書いた日記に対する担任教諭の指導は、「良い」や「頑張ってもらいたい」などの肯定的な表現が多く用いられていることが明らかになった。また、「先生は○○だと思います」、「(A児は)どうでしたか?」などのように、担任教諭自身の考えや、それに対する児童自身の考えや感じ方を表現するように促す指導も行っていることが推察された。

さらに、全ての学年において最も高い頻度で使用された「良い」を分析すると、「応答」の目的で最も多く用いられており、聴覚障害児自身が書いた日記を肯定的に受け入れる表現が用いられていた。他方、「今後は○○できると良いですね」のように、日記文中に書かれたA児自身の行動や考えに対して、更なる"改善"を求める表現も用いられており、日記を通じて、聴覚障害児自身の学びや成長を促すような工夫がなされていることも推察された。

(今後の課題)

今後は、小学部高学年に在籍する他の聴覚障害児童を対象とした日記指導の内容を分析することで、日記を書いた聴覚障害児の実態に合わせた指導の工夫などを検討していく必要がある。

(文献)

田中・斎藤(2007) 特殊教育学研究, 45(3),137-148.

(MOTEGI Masatomo)